

# 三田と東京タワー

三田の東門を出て左手にその優美な姿を見せてくれる東京タワー（正式名称は日本電波塔）。くしくも慶應義塾創立100年にあたる1958年に竣工し、東京の街と慶應義塾の発展を戦後復興・高度成長期から60年間にわたって見守り続けてきた。電波塔としての役割は、東京スカイツリーにバトンタッチしたが、首都のランドマークとしての存在感は今も健在だ。

## 青い空と海を眺望できる 三田の「丘の上」

「海に面して前に遮るものなし、空気清く眺望佳なり」。

慶應義塾が芝新銭座から三田の旧島原藩中屋敷跡に移転したのは1871（明治4）年春のこと。この眺望の良い高台を気に入った福澤諭吉は、『福翁自伝』において冒頭のように当時の心持ちを回想した。以後半世紀にわたり、三田の「丘の上」は、幼稚舎から大学までの諸学校が集まる慶應義塾唯一の校地だった。福澤の思いは「丘の上には空が青いよ」窓を開けば海が見えるよ」とカレッジソング『丘の上』の中で歌い継がれ、昭和40年代までは、実際に三田キャンパスから品川の海を望

むことができた。

東京タワーは、丘の上からまだ海が見えていた1958（昭和33）年に、日本で一番高い建築物として華々しく誕生した。

『三田評論』1976年2月号には、「田町駅を降りて三田方面の階段を降りると、その途中で東京タワーを向こうに見ることができるといふ文学部2年生の文章が掲載されている。

周囲に高層ビルがない当時は、田町駅からの通学路で東京タワーの威容を仰ぎ見ることができたようだ。

現在、東京タワーは東門を出て左



建築途上の東京タワーと慶應義塾図書館（1958年7月）写真提供：共同通信社

手、三田通りの赤羽橋方面に眺めることができるが、東京タワー開業当時、慶應義塾の正門はその三田通り沿いにあった。

## 路面電車と学生街があった 三田通りの移り変わり

1904（明治37）年に路面電車の停留所「慶応義塾前」が三田通りに設置され、多くの塾生が通学に利用していた。そして三田通り沿いは書店、喫茶店、飲食店、文房具店、洋服店などが軒を連ねる学生街として発展していく。三田周辺は戦時中の空襲の被害が比較的少なく、終戦直後も学生街を含めて昔ながらの街並みを保っていた。

1959（昭和34）年に正門が現在の位置に移転し、1969（昭和44）年に路面電車（都電）が廃止になると、塾生の行動範囲が田町駅寄りになっていった。また高度経済



創立75年記念で賑わう三田通り（1932年）  
写真提供：福澤研究センター



三田の商店街の方々に迎えらるる優勝パレードカー

ーにちなんだ数々のイベントを催している。アート・センターでは、「アート・マネジメント講座2009」展示系ワークショップの一環として、港区と共催で「東京タワーについて

成長以降、三田ではそれまで個人所有の邸宅だった土地が外国公館やマンションに置き換わっていった。三田通り沿いもオフィス街化が進み、平成に入ってから道路拡張工事もあって、今やかつての学生街の面影を探すことは難しい。

しかし、現在でも東京六大学野球リーグ戦の優勝パレードが三田通りに差し掛かると、近隣の商店街の方々が選手たちを温かく出迎えてくれる。そこには三田の街と塾生の歴史に裏付けられた親密な関係性を感じることができる。

## 東京タワーと三田祭の コラボレーション企画も

「東京タワー×三田祭（TOKYO TOWER×MITASAI 52nd）」を、東京タワーを会場にして実施。学生団体の公演と、東京タワーと三田祭の歴史展示などを行った。1日限りの開催ながら大盛況のうちに閉幕することができた。

今年も東京タワーから至近距離にある芝共立キャンパスに薬学部が開設されてから10周年でもある。東京タワーはこれからも東京の街と慶應義塾の歩みを、333メートルの高みから優しく見守ってくれることだろう。



芝共立キャンパス屋上庭園から見える東京タワー